

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2016

課題番号：15K21229

研究課題名(和文)カンボジアの水資源管理ガバナンスの分析と政策ビジョンの提言

研究課題名(英文)Analysis and policy proposal on water resources governance in Cambodia

研究代表者

濱崎 宏則 (HAMASAKI, Hironori)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科(環境)・准教授

研究者番号：20617295

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：1点目は水資源管理のガバナンス研究における学術的貢献である。2年間の文献調査や学会等での情報収集、専門家を交えた研究会での議論の成果として、公的セクターと私的セクターをつなぐ役割を果たす主体の重要性を確認した。また今後の展望として、英国で見られる疑似NGOを手がかりとする研究を課題とすべきことが見出された。2点目はカンボジアにおける水資源管理への政策的貢献である。上記の成果をもとに、カンボジアの農業用水管理については水利組合がガバナンスの中心的役割を果たすべきであるという政策提言をまとめた。また、ステークホルダーを一同に会してのワークショップもを行い、提言の実現に向けた課題を共有することができた。

研究成果の概要(英文)：The first outcome is the academic contribution to governance studies on water resources management. The outcome of this two-year research based on literature survey, communication in academic associations, and discussions with different experts in research meetings has confirmed the importance of the actors whose roles should be bridging private sectors with public sectors. Additionally, for further studies, this research found out that our next step should focus on quasi-NGOs as an example of a bridging organization, which can be seen in UK. The second outcome is the contribution to water resources management policy in Cambodia. On the basis of the first outcome, this research has organized policy proposal saying that FWUC (Farmers Water Users Community) should play a leading role of the governance in irrigation management. Moreover, this project has organized the workshops with various stakeholders and shared some challenges to reflect proposals into real policies among participants.

研究分野：水資源管理政策論, 環境ガバナンス論

キーワード：水資源管理 水資源・水システム ガバナンス カンボジア ステークホルダー・マネジメント

1. 研究開始当初の背景

これまでの研究から、メコン河流域の水資源管理においては、国や国際機関と地方自治体や市民との間に情報の分断が起きていることがわかった。具体的には、ダム建設の際に十分な環境アセスメントや、その結果の非公開、ダム計画に関する説明がないなどの問題が生じている。そのようなガバナンスの欠如の結果として、無補償での強制的な住民の立ち退きや河川での漁獲量減少など、社会・環境への悪影響が顕在化していると言える。

こうした状況は、流域国の1つであるカンボジアでも同様である。一方でカンボジアはメコン河下流域の中心に位置し、下流にはベトナムの経済・農業の中心であるメコンデルタを抱える。またこの地域には日本企業も多く進出している。

以上のような背景から、本研究ではメコン河下流域における水資源の持続可能な利用や食料(米・水産物)の確保、経済のさらなる発展に資するという観点から、カンボジアをもっとも重要と考え、対象地域として選定した。

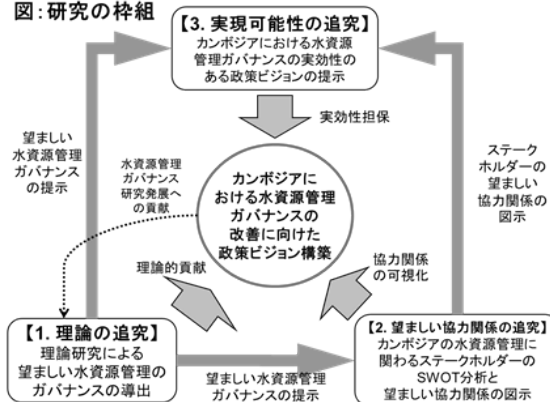
2. 研究の目的

以上のような研究動向・成果を踏まえ、本研究では「カンボジアにおける水資源管理のガバナンスを強化するためにはどのようなステークホルダー間の協力関係が必要で、それを実現するためにどのような政策が求められるのか」という疑問を持ち、SWOT分析を用いた本研究の内容を着想するに至った。

本研究は、カンボジアにおける水資源管理のガバナンスについて、望ましいステークホルダー間の協力関係をSWOT分析を用いて明らかにし、その実現に向けた政策ビジョンを提言することを目的とする。

なおここで用いている政策ビジョンとは、実施を想定した具体的なものではなく、そのための基盤となりうるような指針や方向性を示すものをいう。

図: 研究の枠組



3. 研究の方法

本研究では、上図に示すように(1)望ましい水資源管理のガバナンスについて理論

研究をもとに導出し、(2)カンボジアの水資源管理ガバナンスに関わるステークホルダーの望ましい協力関係をSWOT分析を通じて図示し、(3)図示した結果をワークショップを通じて検討することを通して、最終的に、本研究の最終的な目的であるガバナンスの強化に向けた実効的な政策ビジョンの提言を目指す。

(1)望ましい水資源管理のガバナンスの導出については、誰が(関係するステークホルダーが)、どのように(どのような協力関係で、どのような制度・政策によって)、水資源を管理することが望ましいのかを、文献のレビューを通じて導き出す。また、水資源管理論やガバナンス論に精通する専門家との研究会を開催し、意見交換や議論を通じて理論の精緻化を図る。

(2)カンボジアの水資源管理に関係するステークホルダーのSWOT分析と望ましい相互補完的協力関係の明確化については、カンボジアにおける水資源管理に関わるステークホルダーを特定してインタビュー調査を行い、それぞれの特性について情報およびデータを収集する。そして、それをもとにSWOT分析を行い、それぞれの強みや弱み、ニーズや役割を明らかにする。

この分析結果を解析して、例えば、あるステークホルダーのもつ弱みを他の強みで補完する、あるいは、協働することで相乗効果が期待できるような互酬性を考慮する。この結果から、ステークホルダーの相互関係について、現状および望ましい協力関係を可視化する。

(3)カンボジアにおける水資源管理ガバナンスの実効性のある政策ビジョンの提示については、カンボジアの水資源管理に関わるステークホルダーを集めたワークショップを通じ、上記(2)の結果について実現可能性を議論し、最終的に実行可能な政策ビジョンを提示する。上記(2)において示したステークホルダーの関係図について、具体的に協力が可能かどうか、そのためにはどのような施策が必要となるか、などについて意見交換を行ったうえで、最終的に政策ビジョンを提示する。

4. 研究成果

(1)望ましい水資源管理のガバナンスの導出
2年間の文献調査や学会等での情報収集、専門家を交えた研究会での議論の成果として、公的セクターと私的セクターをつなぐ役割を果たすような主体の存在が、よりよい水資源管理のガバナンスを実現するために重要であることを確認した。

より具体的には、カンボジアおよび一般的な水資源管理とガバナンスに関する文献のレビューからわかってきたことは、公的

セクター（政府・行政）と私的セクター（NGOや市民組織）をつなぐような共的組織が、存在しないかもしくは十分に機能していないことが原因で、水資源管理のガバナンスが改善されない、という問題が、国・地域を問わずに存在するという点である。例えばカンボジアでは、世界銀行が推し進めてきた参加型灌漑管理（PIM: Participatory Irrigation Management）の下で農家による水利用委員会（FWUC: Farmers Water Users Community）が組織され、水利費の徴収や水路の維持・管理を通常業務として行っているが、実態としては政府からトップダウンで指示されたことをこなしているにすぎず、また水利費の徴収率も低迷していて、十分に給水できていない。文献のレビューを通して「水資源管理のガバナンスにおいては灌漑用水管理における水利組織のような共的組織が大きな役割を担う」という仮説の設定に至ったことは、(2)におけるステークホルダーの関係図を考察・分析する際に重要な成果となった。

それに加えて、水資源管理のガバナンス改善のための方策を検討するうえでは、共的組織の役割の重要性を明らかにすることに学術的意義があることがわかった。この点については、今後の展望として、英国で見られる疑似 NGO（QUANGO: Quasi non-governmental organization, 日本における半官半民のような組織の総称）を手がかりとした、共的組織のガバナンスにおける意義に関する研究を課題とすべきことが見出された。

(2)カンボジアの水資源管理に係るステークホルダーの SWOT 分析と望ましい相互補完的協力関係の明確化

平成 27 年度には、カンボジアでの現地調査を 3 度行い、研究実績につながる成果として、「誰がステークホルダーとなりうるか」を特定するステークホルダー分析を行った。その結果、水資源・気象省、農林水産省、県レベルの地方自治体（省）、市町村レベルの自治体（コミュニティ）、水利組織、ローカル NGO をステークホルダーとして特定することができた。また、この結果をふまえてそれぞれのステークホルダーにインタビュー調査を行い、SWOT 分析に必要な情報を収集することができた。

平成 28 年度には、上記のインタビュー調査で収集した情報をふまえ、まずは SWOT 分析を行って各ステークホルダーの強み/弱みと機会/脅威を導き出し、それぞれの特性を明らかにした。そして、あるステークホルダーの弱みを他のアクターの強みで補完できるか、あるいは直面している脅威に対して他のステークホルダーとの協働によって改善への道筋が描けないか、などといった相互の関係性に注目して、最終的に、現状および望ましい協力関係の図を作成し、可視化することができた。

(3) カンボジアにおける水資源管理ガバナンスの実効性のある政策ビジョンの提示

前述の(1)・(2)の成果をもとに、カンボジアの農業用水管理については、水利組合（FWUC）がガバナンスの中心的役割を果たすべきであるという政策ビジョンをまとめた。そのうえで、カンボジアにおける農業用水管理のガバナンス向上のためには、農家の水利組織への主体的な関わりを通じた灌漑管理への参画を促す、および、水利組織の機能を向上させ政府組織との協力関係を強固にする、という 2 つ具体的な政策提言もまとめ、報告書にして関係するステークホルダーに提出するに至った。

また、ステークホルダーを一同に会してのワークショップも行い、上記の提言に関して、実態や実現可能性の観点から議論を交わすことができた。最終的には、上記の提言が一定程度有用であることを確認したうえで、その実現に向けた課題を共有し、今後の研究の方向性を確認することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

Hamasaki, H. and Sopheak, K.
"Visualizing irrigation governance in Cambodia - bridging scientific result of stakeholder mapping with policy making" *XVI Biennial IASC (International Association for the Study of the Commons)*, 2017 年 7 月 10 日 ~ 14 日, Utrecht, Netherlands.

Hamasaki, H. and Sopheak, K. "Strategic assessment of the key stakeholders' roles in the irrigation governance in Cambodia through comparative SWOT analysis" *The 12th International Symposium on Southeast Asian Water Environment*, 2016 年 11 月 29 日, Hanoi, Vietnam.

Hamasaki, H., Nagano, T., Akca, E., *et al.* "Adaptive governance of irrigation in GAP region, Turkey - From the transdisciplinary viewpoint -" *Eurosoi12016*, 2016 年 10 月 20 日, Istanbul, Turkey.

Hamasaki, H. and Gultekin, U.
"Transition of Irrigation Governance in Southern Turkey" *World Water Congress XV*, 2015 年 5 月 27 日, Scotland, United Kingdom.

〔図書〕(計 1 件)

濱崎宏則「ステークホルダーと科学者の共創による新たな灌漑農業ガバナンスの模索」, 窪田順平編, 勉誠出版, 『水に分かつ 地域

の未来可能性の共創』所収, 2016, 205-224 .

6 . 研究組織

(1)研究代表者

濱崎 宏則 (HAMASAKI, Hironori)
長崎大学・水産・環境科学総合研究科 (環境)・准教授
研究者番号 : 20617295

(2)研究分担者

特になし

(3)連携研究者

特になし

(4)研究協力者

SOPHEAK, Kong
王立プノンペン大学・開発学部・講師